

会 議 録

会 議 名	令和7年度 山陽小野田市自立支援協議会
開 催 日 時	令和8年1月28日(水) 14:00～15:30
開 催 場 所	高千帆地域交流センター分館 2階
出 席 者	<p> 光栄会障害者就業・生活支援センター 網広 孝明 山陽小野田精神保健家族会 池田 はるみ 宇部公共職業安定所 岡村 弘明 社会福祉法人神原苑 佐々部 翔也 山口県宇部健康福祉センター 鉄原 伴子 一般公募 山岡 中川 正治 山陽小野田市民生児童委員協議会 中村 尚子 山陽小野田市教育委員会学校教育課 升谷 哲也 山陽小野田市障害者協議会 宮川 力雄 山陽小野田市介護支援専門員連絡協議会 山下 聡之 相談支援事業所のぞみ 吉見 兆生 山陽小野田こども発達支援センターとことこ 吉水 多加志 山陽小野田市社会福祉協議会 若松 勇輔 (委員19名中13名) </p>
事務担当課 及び職員	<p> 福祉部長 尾山 貴子 福祉部次長 田尾 忠久 障害福祉課長 池田 哲也 障害福祉課課長補佐 松本 啓嗣 障害福祉課障害支援係 主査 古谷 直美 障害福祉課障害福祉係 係長 幸池 百子 障害福祉課障害支援係 主任技師 中村 早枝華 </p>

<p>会 議 次 第</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉部長あいさつ 2. 委員紹介 3. 会長・副会長選出 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談支援の状況について (2) 自立支援協議会の地域課題への取組について (3) 日中サービス支援型共同生活援助事業に係る実施状況について (4) 第7期山陽小野田市障害福祉計画及び第3期山陽小野田市障害児福祉計画に係る評価等 (5) その他
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉部長あいさつ <p>福祉部長があいさつを行った。</p> 2. 委員・事務局紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から委員6名が欠席することを報告した。 ・配付している名簿の順で各委員が自己紹介を行い、その後、事務担当課職員が自己紹介を行った。 3. 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談支援の状況について <p>事務局が資料に沿って説明を行った。【資料1】</p> <p>会長：事務局の説明を受けて何か質問はないか。</p> <p>会長：夜間・休日の相談件数の増加は「勤務時間外」を広く計上する報告様式変更によるものか確認。</p> <p>事務局：その理解で正しい（早朝・夕方などの業務時間外を含む）。</p> <p>委員：相談件数に、市の障害者相談員の件数は含まれるのか。相談員経由の相談はどこで集計・活用されているのか。</p> <p>事務局：資料の相談件数は基幹相談支援センター（のぞみ）への相談のみ集計している。市役所直接相談や障害者相談員の対応件数は別途集計で、本資料には未計上。ただし、相談員から市経由で基幹相談支援センターに繋いだ相談は、相談件数に含まれる。</p>

委員（相談支援事業所のぞみ）：基幹相談支援センターのぞみとして市からの依頼として受けた相談の中に、市の障害者相談員からの相談も入っていると認識している。

(2) 自立支援協議会の地域課題への取組について

事務局が資料に沿って説明を行った。【資料2、別紙2】

委員：障害者の就労相談におけるハローワーク窓口対応への問題提起。受け入れ基準が不明確で、配慮や理解が不足すると当事者が萎縮・自己否定に陥る懸念を指摘。受け入れ可能な範囲（障害の程度・状況）の明記を要望。受け入れ企業側の体制整備（設備投資・社員教育・専門人材）の不足を指摘。障害者差別解消法を活用した理解促進・確認手続の徹底を提案。

委員（ハローワーク）：窓口で不快な思いをさせた点を謝罪。ハローワークは「一般就労・障害者雇用」に向けた求人応募支援が主で、事業所の配慮を求めつつ能力適合求人を斡旋。

マッチしない場合は障害者就業生活支援センター、就労系福祉サービス（A型、B型、就労移行、就労選択支援のアセスメント）へ連携。市の福祉窓口への案内が「冷たい対応」と受け取られた可能性に言及し、今後はニーズを丁寧に聴取し親身に対応すると表明。

会長：企業側の理解促進とジョブコーチ制度の活用必要性に言及。ハローワークの回答に謝意。

(3) 日中サービス支援型共同生活援助事業に係る実施状況について

事務局が資料に沿って説明を行った【資料3、別紙1、別紙1参考】

会長：事務局の説明を受けて何か質問はないか。

委員（地域連携推進会議に出席した委員）：補足として、併設の短期入所は子ども利用が多く、近隣の受け皿不足時に有効。重度受け入れにも対応。日中活動（外出・イベント等）の充実を要望。

会長：それでは、自立支援協議会からの要望や助言はないということで、これまでどおり実施していただく。

(4) 第7期山陽小野田市障害福祉計画及び第3期山陽小野田市障害児福祉計画に係る評価等

事務局が資料に沿って説明を行った。【資料4、きらきらプラン】

会長：事務局の説明を受けて何か質問や意見はないか。

委員：介護支援専門員の立場から、医療的ケアは訪問看護が関与している事

例がある。

・個別事例について事務局説明。【別紙4】

会長：事務局の説明を受けて何か質問や意見はないか。

委員：18歳以降の切れ目ない支援と福祉・医療の連携強化の必要性を指摘。

委員（教育委員会）：教育的観点から、適切な環境配慮下での体験・刺激の機会確保、関係機関連携の重要性を述べる。

委員（サービス事業所）：受け入れ検討したが、窓からの日差し等の環境制約で対応困難だった事例を報告。

(5) その他

事務局より「こころのバリアフリー障害福祉講座」（視覚障害）開催案内。